



校長室だより 笑顔



◆さくら児童会スローガン：助け合い いつも元気に あかいつ子◆

さくらだいこくん

東松島市の小中学校は今年度から2学期制です

夏休みを「学びの個性化」の機会に

東松島市の小中学校は、今年度から1年間を2つの学期に分ける2学期制を実施します。その特長は…

- (1) 授業時数に余裕が生まれ、これまで以上に時間をかけて丁寧に学習を進めることができます。
- (2) 7月や12月にも学校行事を配置し、年間を通してゆとりある学校生活が実現できます。
- (3) 7月と12月にゆとりが生まれ、教師が子どもたちと向き合う時間が増え、個々の心に寄り添うことで、生活を整え、自己肯定感を育むことができます。
- (4) 中学校においては、これまで以上に生徒や保護者との綿密な進路相談が可能になります。
- (5) 学校で学習したことを長期休業中の家庭学習で深めたり、その成果を休業後の学習に反映させたりすることで学びの連続性が図られ、適切な支援により適正な評価につなげることができます。

2学期制により、教師が子どもたちとしっかり向き合い、成長を見守ることで、学校・家庭・地域とともに、本市の子どもたちの未来が豊かになるよう取り組みを進めます。(市報「ひがしまつしま」3月1日号より)

夏休みは1学期の一部となり、9月後半のまとめや振り返りの時期を経て2学期の学習につなげていきます。つまり、夏休みは一人一人の興味関心を生かし、これまでの学びを深めたり、広げたり、定着・強化を図ったりする絶好の機会になるということです。そこで、7月の朝会では私から以下のような話をしました。

(要約)

7月の朝会講話から 「？」を大切に探究しよう

今日は、自分の調べたい「？」を工夫しながら調べた小学生が、世界的に認められたことを紹介します。

埼玉県の小学6年生、柴田さんは、夏になるとクヌギの木に樹液をなめに来るカブトムシを捕まえに行っていました。カブトムシは夜行性ですが、柴田さんの家の庭の木には、昼間でもカブトムシがいました。「なぜだろう？」不思議に思った柴田さんは、小学4年の夏休み、自由研究で昼間に家の木に集まるカブトムシの数を数え始めました。カブトムシが集まるのは、「シマトネリコ」という木だということまでは分かったのですが、図書館の本で調べたり、大学の研究者に質問したりしても、なぜその木のカブトムシが昼間も活動し続けるかは分からなかったそうです。そして5年生の夏休み、柴田さんは毎日欠かさず、出かける前と帰ってから、時には家族にビデオを撮影してもらって数え、合計230回以上も観察したそうです。その結果、多くのカブトムシが夜のうちにシマトネリコの木に集まり、そのまま昼間も活動を続けていることが分かりました。そのねばり強い観察と、細かくデータを取ったことが認められ、世界のトップレベルの科学雑誌で紹介されました。ただ、なぜシマトネリコに集まるカブトムシが昼間も活動するのかは分かっていないので、柴田さんはこの夏も観察をする予定だそうです。

柴田さんの話を聞いて、皆さんはどう思いますか。柴田さんは、特別な小学生ではありません。「？」と思ったことを、そのままにせず、調べたり、観察したり、実験したり、だれかに聞いてみたりしたのです。そのことで、柴田さんの世界はどんどん、どんどん、広がっていったのですね。

東松島市の小中学校では、今年度から夏休みも1学期の一部になります。夏休みは、これまでの学習を生かして、皆さんの心の中の「？」を工夫して調べてみる大きなチャンスです。夏休みにどんな学習やチャレンジをするか、これから夏休みまでの3週間、友達や先生といろいろ考えてみてくださいね。きっと皆さん一人一人にしかできない、「？」への挑戦があるはずですよ。

東松島市子ども未来サミット開催！東松島ゴールを目指して

東松島市の小中学校では、「デジタルメディア」と自分たちの生活のかかわりについて見直し、自律（自らコントロールする）した生活を目指していく取り組み「デジタルメディア・コントロール・チャレンジ」を実施しています。5月に実施した市内小中学校の代表によるオンライン会議、第1回目のチャレンジ期間を経て、小学校では高学年（中学校では全学年）を中心に、「東松島ゴール」を目指す取り組みはどうあればよいか話合っています。

先日は、東北大学の瀧先生の講話を高学年がオンラインで視聴しました。

◎生活習慣は脳の成長にダイレクトに結び付く。

よく寝ること、しっかり食べることで脳が発達する（特に朝食で米飯を摂るとよい）。楽器を弾くことや勉強をすること、読書も有効。

◎良好な親子関係、親が子どもをしっかりほめると脳はよりよく発達する。

◎会話をすることは、共感性（相手の気持ちを理解する力）を高める。会話では、相手の気持ちを理解するために、しぐさや表情等から読み取る必要があり、SNSよりはるかにたくさんの情報を処理する。

◎デジタルメディア・コントロールにより空いた時間で、自然体験や読書をするるとよい。

自然体験は自尊心や外向性を伸ばすのに有効、読書は学力を伸ばすのに有効。

など

子どもたちからは、「テレビを見すぎたり、ゲームをやりすぎたりすると脳が発達によくないと分かった」「メディアをコントロールして読書する時間をつくらうと思った」などの感想が聞かれました。

これらを受け、7月30日には「子ども未来サミット」が開かれます。本校からは5、6年の代表が参加し、他校の代表と意見を交わしてきます。代表児童をはじめ全校児童がデジタルメディアをコントロールすること、その時間をどう使うかを「自分ごと」として考え行動に移していくことで、一人一人が自分の人生を豊かにしていく力をはぐくんでほしいと願っています。

脳の発達にも役立ちます・各学年の自然体験



左：1、2年生生きもの探し 中央：5年宿泊野外活動 右：4年ふるさと学習

「協同的な学び」で目指す学力向上

「確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ児童の育成」のために、取り組んでいる校内研究。今月は2年生が、物語文を教材として



登場人物の気持ちを豊かに想像し、音読で表現する学習に取り組み、その様子を全教員が参観しました。ペアやグループで互いの考えを聴き合い、学びをより深めていく姿が見られました。



本校校庭を中心に活動しているスポーツ少年団「赤井ビクトリー」が「旭山旗争奪少年野球河南大会」で優勝、「東松島市商工会長杯争奪新人野球大会」で準優勝し、報告に来てくれました。おめでとうございます！